



Title	複数の意味を表す畳語・接辞／前置詞について：日本語とインドネシア語との比較
Author(s)	
Citation	令和5（2023）年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書. 2024
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95158
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

令和5年度大阪大学未来基金「学部学生による自主研究奨励事業」研究成果報告書

ふりがな 氏名	さんとさ くるにあわん Santosa, Kurniawan	学部 学科	外国語学部 外国語学科	学年	3 年
ふりがな 共 同 研究者氏名		学部 学科		学年	年
					年
					年
アドバイザー教員 氏名	鴻野 知曉	所属	人文学研究科 日本学専攻		
研究課題名	複数の意味を表す畳語・接辞／前置詞について —日本語とインドネシア語との比較—				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。(先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。)				

■ 研究目的

本研究は、日本語の複数を表す畳語名詞と接辞「たち」が付く名詞について、個別性を中心に発展的な考察を行う。また、インドネシア語では、畳語が多用されており、畳語の生産性という点では日本語よりも豊富である。したがって、日本語の複数を表す畳語名詞・接辞「たち」と、インドネシア語における複数を表す畳語名詞・前置詞「para」が付く名詞との比較も行う。

なお、畳語と「たち」「para」を比較するために、畳語形にすることも、「たち」「para」をつけることもできる名詞を使う必要があるため、対象とする名詞は「人」「orang（人）」にする。後ほども述べるが、インドネシア語では「para orang（人たち）」が不適格な表現であるため、そのほかの名詞、「guru（教師）」も対象にする。

さらに、日本語では修飾されない「人たち」が不適格であるため、「人々」「人たち」が比較できる文脈として「その／それらの」をつけた形で論じていく。

■ 研究計画・方法・経過

次のような手順で研究を進めた。

① 2023年8月まで

日本語の畳語と「たち」、オンラインや図書館でアクセスできるインドネシア語の畳語と「para」に関する文献を調べた。本研究の筆者は日本語母語話者ではないため、BCCWJ というコーパスを用いた用例の収集も行った。BCCWJ（現代日本語書き言葉均衡コーパス）は現代日本語（書き言葉）の全体像を把握するためのもので、新聞記事や小説、サイトなどのデータを収容している。主要な検索条件は次のようである。「其の+人々」「其の+人+達」「其れ+等+の+人々」「其れ+等+の+人+達」「、+人々」「、+人+達」「（品詞：名詞）+々」。

② 2023年9月上旬～中旬

インドネシアのジャカルタとバリで先行研究の調査を行った。

場所：ジャカルタ都立図書館、Freedom 図書館、インドネシア国立図書館、インドネシア大学図書

館、Kemdikbud 図書館、デンパサール市立図書館、バリ州立図書館、ウダヤナ大学図書館

結果：疊語や「para」に関する図書を 22 冊、学術雑誌を 29 種見つけ、閲覧した。閲覧した文献を「参考文献」の次に載せる。

③ 2023 年 9 月中旬から

集めた文献や BCCWJ のデータに基づいて考察を行った。

■ 先行研究（日本語の疊語・「たち」など）

日本語の疊語・「たち」などに関する主な先行研究を簡単に紹介する。

① 國廣（1980）

疊語名詞に含まれる個体は「〈個別性〉（individuality）がかなりはつきり意識されて」（p. 13）おり、またその〈個別性〉は「〈少しずつ異なっている〉（various）という含みを持っている」（p. 13）ため、「疊語複数は〈個別性を保った不特定多数〉を意味する」（p. 14）のだと述べた。

② 三浦（1998）

「『個別的不特定多数』というだけでは疊語名詞の本質を理解したことにはならない」（p. 46）と述べ、「異種カテゴリー」の考え方を使って、疊語の特性は「異種、個別的不特定多数」（p. 47）と主張した。

③ 禹（2015a）

・「空間的に共在する指示対象に焦点を当てて『数の多さ』を表す」（p. 38）もののほかに、「出来事の内部に存在する指示対象が時間の流れとともに漸次的に現れ」（p. 39）るものあると述べ、後者の複数概念を〈累積的複数〉（cumulative plural）と名付けた。

・日本語の疊語形は「〈同質〉（homogeneous）のものの集合を指し示す」（p. 36）のに対し、接辞の「たち」は「〈同質複数〉や〈近似複数〉の両方の機能をもっている」（p. 37）と説明した。しかし、〈同質複数〉を表す場合疊語形と接辞の「たち」はどう異なるのかに関する説明はなされていない。

④ 田村（1991）

疊語と「がた」「たち」「ども」「ら」の接尾辞との相違点として、⑦疊語は±animate で、接尾辞は基本的に+human、①固有名詞は疊語にすることができないが、接尾辞「たち」「ら」とは共起できる、⑦疊語には生産性がない、②特定の数を表す数詞は接尾辞としか共起できない、という 4 点を挙げた。

⑤ 禹（2015b）

例えば「学生たちが来た」（p. 80）の「学生」に接尾辞「たち」を付与することによって「個別性・境界性・限定性を有する非連續体としての単位が獲得され」（p. 80）るということが挙げられるが、「『学生』の数には程度の幅がぼやけており、『不確かさ』の問題」（p. 80）が含まれると指摘した。

上記の研究では、「（同質）複数／多数」の機能という観点から（例えば「その人々が通り掛かった」と「その人たちが通り掛けた」）、疊語名詞と「たち」を比較する研究は見られない。

■ 先行研究（インドネシア語の疊語・「para」など）

インドネシア語の疊語・「para」などに関する主な先行研究を簡単に紹介する。ちなみに、インドネシア語の疊語に関する多くの研究は疊語を形態論的に分類するか、名詞に限らず形容詞や動詞なども考慮に入る形で疊語を分類している。

① デディ (2006)

インドネシア語の名詞や形容詞などの重複語を意味的に6つに分類し、その1つは複数名詞に関するものであり、それは「主に複数や数量の多さを表す」(p. 299)ことであるという。この項目は「単に数量的な意味を表すだけでなく、その中には種類の多種性という意味も含まれている」(p. 299)と述べた。

② Verhaar (2016)

「インドネシア語の畳語名詞は間接的に〈複数〉を意味するが、どちらかというと variasi (多種性) を表し、小さな相違点があることを含意する」(pp.153-154)と述べた。例えば、「tujuh (7) anak (子供)」には子供ごとに異なるという意味合いがないのに対し、「anak-anak (子供子供) ini (この) perlu (必要がある) dididik (躾を受ける)」には体の大きさなどで異なっているという意味合いが含まれる。

③ Simatupang (1979) : 〈tak tunggal〉 (非単数)

〈tak tunggal〉 (非単数) という意味を持つ畳語名詞は完全畳語形の名詞、つまり buku-buku (本本) のように基本形をそのまま繰り返す名詞で、その基本形には[+HITUNG(可算)]という要素が入っているとされる。また、畳語形にしなくとも 〈tak tunggal〉 の概念を表すことができるため、畳語の使用は 〈tak tunggal〉 を表す明確な方法(cara yang eksplisit)であるという。

④ Alwi *et al* (1993)

「Para」の機能は「特に職業や地位に関する同じ性格／性質を持つ者の集団性を強調すること」(p. 341)だとされ、para guru (教師たち)、para petani (農家たち)、para ilmuwan (研究者たち) とは言えるが、*para anak (子供たち)、*para orang (人たち)、*para manusia (人間たち) とは言えないと主張する。

⑤ Sneddon *et al* (2010)

「Para」は共通する特徴を持つ人(間)を表す名詞にしか使用されず、orang (人)、anak (子供)、manusia (人間) のような generic nouns には使われないという。

⑥ Moeliono *et al* (2017)

「Para」の使用は「職業や地位などの性質を持つ者の集団を表す名詞に限る」(pp. 367)と述べ、また、adik (弟) や teman (友達) など血縁関係、友情関係に関する名詞は畳語形にすることはできるが、「para」に修飾されることとはできないと付け加えた。

これらの中には、「(同質) 複数／多数」の機能という観点から畳語名詞と「para」を比較する研究は見られない。

■ 研究成果

研究成果を3つの節に分けて挙げる。第1節は「その」「それらの」という指示詞に修飾される「人々」「人たち」とインドネシア語との比較についてである。この節では〈個別性〉について、⑦禹 (2015a)による〈累積的複数〉、①多種性、⑦発言者の価値性という3つの観点から考察を行い、これらの考察をまとめた。ちなみに、本研究では(「人々」の)〈個別性〉というのは、複数の人が集合として〈人〉性を持つものとして「ひとまとまり」にしながら、同時に集合のメンバーの間に、ある意味で、〈人〉性よりも小さい性質の違いがある、ということを示すとする。また、第1節では「その」・「それらの」の違い、「それらの人」の考察についても挙げる。第2節は修飾されない「人々」「人たち」(「人」)とインドネシア語との比較についてである。第3節は「人々」以外の複数を表す畳語名詞についてである。

1. 「その」「それら」に修飾される「人々」「人たち」とインドネシア語との比較

國廣（1980）では〈個別性〉について提唱されたが、アイデアが示唆されただけであり、十分に検討されているわけではない。そこで、本節では、國廣（1980）が述べた〈個別性〉(individuality)という考え方を発展させ、3つの観点から考察を行う。表1はBCCWJで調べた用例の数を表すが、翻訳作品からの用例とそれ以外の用例を分けており、考察の対象にするのは後者のみである。なぜなら、翻訳作品に元の言語の影響が及ぶ可能性があるからである。例えば、英語の複数名詞の翻訳では、ことさらに畳語形になるか接辞「たち」などがつく、ということが想定される。

表1 BCCWJに掲載される用例数

	其の+人々	其の+人+達	其れ+等+の +人々	其れ+等+の +人+達
用例数(翻訳以外)	65件	478件	50件	17件
用例数(翻訳)	18件	65件	6件	2件

1. 1. 〈累積的複数〉

1. 1. 1. 日本語の場合

まず、禹（2015a）による〈累積的複数〉についてあげる。〈累積的複数〉は「出来事の内部に存在する指示対象が時間の流れとともに漸次的に現れて」（禹，2015a:39）いるということを表すもので、その1つの例として「(11)c. そのカメラで午河は、玄関を出入りする人々を何人か試しに撮影してみた。」（禹，2015a:38）があげられている。この例では、「人々」が表すのは複数の人が同時に出入りすることだけではなく、一時点では1人だけが出入りすることもあり、それが何度も繰り返されることによって長期的な時間幅で見ると合計的に複数の人になるということである。

本研究の筆者は、禹（2015a）による〈累積的複数〉を畠語の個別性と関連付けてみた。畠語名詞に個別性が含まれるならば、その複数の名詞（ここでは複数の「人」）一人一人がより認知されやすくなり、その一人一人を巻き込む個別の出来事もより想定されやすいからだと考えられる。したがって、「その人々」「それらの人々」といった畠語名詞を含む表現は〈累積的複数〉を表すことができるとしても想定される。実際に、BCCWJでは〈累積的複数〉の用例が認められ、その例として下記の例(1)(2)が挙げられる。例(1)では複数の人が口承を伝えたのが同時ではなく長期間にわたって複数の人が関与していること、例(2)では複数の人が歩いた経路とタイミングは同じではないということがうかがえる。

それに対して、「たち」には個別性が含まれないため、「そのたち」を使うとそれらの人がひとまとまりとして何かを同時に、または順番に行うということしか考えられない。例えば、例(3)では複数の人が順番に小舟に乗ったということが明らかである。しかしながら、長時間に渡って何かの出来事が逐次・次第に・順序に起こるという場合では「たち」も〈累積的複数〉を表すことができる。例えば、例(4)では複数の人が長い期間に渡ってだんだんと（逐次）移り住むようになったため、「その人たち」が使用できる。ちなみに、「それらの人たち」はBCCWJのコーパス内で〈累積的複数〉を表す用例が1つも見られない。

- (1) 日本の昔話は、列島に水稻を持ちこんだ大陸の渡来人によって培われ、その人々の口承がアジアの古典説話の母体ともなった。 稲田浩二『昔話の年輪 80選』(BCCWJより)
- (2) 三圍神社や牛島神社で助かった人はたしかにいるが、それらの人々が歩いた経路やタイミングまでは判らない。 半村良『ぐい呑み』(BCCWJより)

- (3) (省略) 黒船見物に多くの人々が集まり、その人たちを小船に乗せ、船貨を取る者も現れた（省略）。 佐藤宏之/佐藤宏之/大石学/工藤航平/菊地清香『地名で読む江戸の町』（BCCWJより）
- (4) そして、その人たちが東のほうにだんだんと移り住むようになって、（省略）。 吉本隆明『超「戦争論」』（BCCWJより）

1. 1. 2. インドネシア語の場合

インドネシア語との比較は、挙げた日本語の例を本研究の筆者がインドネシア語に翻訳し、「orang itu (その人)」「orang-orang itu (の人々)」「para orang itu (の人たち)」「guru itu (の教師)」「guru-guru itu (の教師教師)」「para guru itu (の教師たち)」のどれが適格になるのかを見るという形で行う。インドネシア語に翻訳した例を指して述べるときには、該当する例の番号にアポストロフィ「'」を加える。

表2から、「para orang itu」は例(3')(4')では不適格になることが見られる。これは、Alwi *et al* (1993)とSneddon *et al* (2010)が指摘したように、「para orang」はもともと、インドネシア語では使われないからである。そこで、「orang」の他に「guru (教師)」への置き換えも検討した。インドネシア語では〈累積的複数〉は疊語形で表現されることがうかがえる。順番という意味合いが含まれる場合、「para orang itu」以外の「para+名詞+itu」が使用される（表では「○ (例外的に×)」と示した）。

表2 インドネシア語における〈累積的複数〉

	インドネシア語の疊語 guru-guru itu / orang-orang itu	インドネシア語の「para」 para guru itu / para orang itu
日本語の疊語 (累積的複数)	○	×
日本語の「たち」 (順番などを表す)	×	○ (例外的に×)

1. 1節をまとめると、日本語でもインドネシア語でも〈累積的複数〉を表すには疊語形が使用され、その〈累積的複数〉に逐次・次第に・順序にという意味合いが含まれる場合には「たち」「para」が使われる。

1. 2. 多種性

1. 2. 1. 日本語の場合

次は多種性について挙げる。「その／それらの十人々」が個別性を意味するものであるならば、多種性が含まれても自然なことである。なぜなら、「人々」の多種性に着目するためには、その「人々」の個別性に着目する必要があるからである。つまり、個別性が無視されるときに多種性も無視されるのである。これは、三浦(1998)による「異種、個別的不特定多数」と類似する。ただし、三浦(1998)の主張とは一部異なり、修飾されない疊語名詞には「個別性」「多種性」が含まれない場合もあることを本研究で指摘した。これについては第2節で解説する。

多種性が認められる例として以下の例(5)(6)を挙げる。例(5)では、「その人びと」が教員、文部省の関係者などで構成されることから、多種性が確認される。例(6)では、「それらの人々」の職業が多岐にわたるという多種性が見られる。

(5) まず第一は、難民のなかからカンボジアで教育関係の仕事に就いていた人びと（教員、文部省の関係者など）を（省略）。その人びとで教育のために何が必要かを話し合ってもらいます。

渡部淳『国際感覚ってなんだろう』(BCCWJより)

(6) (省略)、選び出した職業も大工、屋根師から魚屋、鰻屋をはじめ寺子屋の師匠に至るまで、実に職業百般に及び、それらの人々の性格や特色が生き生きととらえられている。

渥美國泰(著)『江戸の工夫者鍬形惠斎』(BCCWJより)

先行研究では、「たち」が多種性を表すと主張するものはない。本研究でも、「人たち」は「ひとまとまり」の機能を果たし、個別性を含意しないと考える。例えば、例(7)では「とにかく十人の若い健康の男」から見られるように、その十人の個別性・多種性を必要とせず、重要なのは「若い健康の男」に属する人である。例(8)では、注目の対象になるのは延べ約七百万以上の台湾の民衆があり余る情報と金品を携えて中国を訪れるということであり、それらの人の個別性、多種性は重要視されない。

(7)『組織』が適当な人間を十人ばかりみつけてきて、我々はその人たちに手術を施し、その結果を見ました」「どんな人たちですか？」「それは我々には教えんかったですね。とにかく十人の若い健康な男性です。

村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(BCCWJより)

(8) (省略)、延べ約七百万以上の台湾の民衆が中国を訪れている。それらの人たちはあり余る情報と金品を携えて中国へ入って行き、その大部分が福建省に行くのである。

中嶋嶺雄(著)『中国現代史』(BCCWJより)

表3 インドネシア語における疊語・「para」の多種性

	インドネシア語の疊語 guru-guru itu / orang-orang itu	インドネシア語の「para」 para guru itu / para orang itu
日本語の疊語 (多種性)	○	×
日本語の「たち」 (同種性)	△	○ (例外的に×)

1. 2. 2. インドネシア語の場合

例(5')(6')は多種が含まれる例で、例(7')(8')は多種が含まれない例である。インドネシア語では、多種性の有無と関係なく「orang-orang itu」を使用することができるが、多種性がないときにはどちらかというと「mereka (彼等)」の方が自然である。また、「para+名詞+itu」には多種性がなく、同質複数を表す日本語の「名詞+たち」と似ている。換言すると、インドネシア語の「疊語+itu」は同種も多種も表すことができるのに対し、インドネシア語の「para+名詞+itu」は同種しか表すことができないのである。「Mereka」は同種も多種も表すことができる。

1. 2 節をまとめると、日本語でもインドネシア語でも、疊語形は多種性、「たち」「para」は同種性を表すが、インドネシア語の疊語形も同種性を表すこともある。

1. 3. 発言者の価値性

1. 3. 1. 日本語の場合

最後に、発言者の指示された複数の人に対する捉え方（価値評価性・待遇性）について挙げる。「その／それらの十人々」では、発言者は複数の人をことさら否定的・軽蔑的には捉えないのに対し、「そ

の人たち」では発言者は明らかに否定的に捉える時もある。換言すると、発言者が複数の人を否定的に捉える場合、「その人たち」が使われる所以である。「それらの人たち」も否定的な価値性を表すことができるかもしれないが、用例は見つからなかった。BCCWJにおける「その人たち」の用例の中で否定的な意味合いが含まれる用例数は19件ほどで、その多くは会話文である。一方、「人々」「それら人々」「それらの人たち」の用例では否定的な評価・待遇性を伴うものは見られない。

「その十人たちは」は否定的な捉え方に使われる理由も〈個別性〉に関係すると思われる。それは、「その十人たちは」には個別性が含まれないため、「その人たち」の使用は複数の人を「敵」のまとまり、つまり同種のものとして捉える文脈に適しているからである。

- (9) 「近頃領民になった者の中には、もちろんザック様ほどではありませんが、強い、いろんな力を持つ者もいるという話です。その人たちは、ザック様を憎んでいます」

眉村卓『迷宮物語』(BCCWJより)

- (10) 「(省略) ということを、警察や検事局の人たちのせいだと考え、“親の敵”を討つために、その人たちは息子や娘を殺したのだ、というふうに思っているのではないでしょうか？」

高木彬光『仮面よ、さらば』(BCCWJより)

- (11) しかもその人たちは主婦業に自信満々で、話の内容が聞こえてくるだけでも不快です。

Yahoo!知恵袋 (BCCWJより)

- (12) (省略) 子供の名前を聞こうともしないし、その人たちはお子さんがうちの前で遊んでいて、うちの子が庭から見ていた知らん顔です。

Yahoo!知恵袋 (BCCWJより)

1. 3. 2. インドネシアの場合

インドネシア語では、否定的な意味合いが含まれる場合、「para+名詞+itu」は少し不自然で、どちらかというと「疊語形+itu」か、「mereka (彼等)」が使われる。しかし、「para+名詞+itu」の名詞が penjahat (犯人) のように悪い人を指す場合には適格になる。Penjahat のほかに、penjilat (佞人)、perampok (強盗)、binatang (動物：人を蔑むときにも使われる)、pembunuh (殺し屋)、penculik (誘拐者) などが挙げられる。要するに、インドネシア語では、否定的な意味合いは「疊語形+itu」「mereka」「para+ (否定的な意味のある) 名詞+itu」で表現されるのである。

表4 インドネシア語における疊語・「para」の(発言者の)価値評価性・待遇性

	インドネシア語の疊語 guru-guru itu / orang-orang itu	インドネシア語の「para」 para guru itu / para orang itu
日本語の疊語 (否定的な評価なし)	—	—
日本語の「たち」 (否定的な評価あり)	○	△ (例外的に×)

1. 3 節をまとめると、日本語では否定的な評価を表すには「たち」が使用されるのに対し、インドネシア語ではどちらかというと疊語形か「mereka」が使われる。しかしながら、インドネシア語では悪い人を指す名詞の場合「para」を使うこともできる。

1. 4. まとめ

ここまでまとめは以下の表5のようである。

表5 第1節のまとめ

	〈累積的複数〉	多種性	発言者の価値性
「その／それらの人々」	表すことができる	多種を表す	否定的な評価を表さない
「その／それらの十人たち」	順番を表す〈累積的複数〉のみ	同種を表す	否定的な評価を表すことができる （「それらの十人たち」では否定的な表を表す例は見られない）
「Orang-orang itu」「Guru-guru itu」	表すことができる	多種・同種を表す	否定的な評価を表すことができる
「Para orang itu」	不適格	不適格	不適格
「Para guru itu」	順番を表す〈累積的複数〉のみ	同種を表す	否定的な評価を表すこともあるが、少し不自然
「Mereka」	表すことができる	多種・同種を表す	否定的な評価を表すことができる

1. 5. 補足

この節では2つの点について補足する。1つ目は、「その」と「それらの」との違いについてである。「それらの人々」は「その人々」とあまり変わらないが、多種性がより強調されるのである。例えば、下の例(13)である。

(13) 日本人・ドイツ人・アメリカ人などそれぞれの民族または国民に共通にみられる国民性、職人・裁判官・教師など職業を同じくする人のあいだにみられる職業的性格、東北人・関西人・江戸っ子などの特徴を示す地域的性格の違いなど、一種の類型的性格が認められるのは、それらの人びとの社会生活に共通する考え方や行動様式があるためである。

著者不明『現代心理学入門』(BCCWJ より)

一方、「それらの人たち」は、様々な背景の複数の人が（一時的に）1つのグループ（と認知されるよう）になるという意味合いを含む例が多く見られる。例えば、例(14)では、構成員の背景が様々ということが認められているものの、最終的に対策本部を作った1つのまとまりとして認知されるようになる、ということがうかがえる。

(14) 火山の専門家、東京都の役人、大島の警察署長、消防団の団長、そして島の交通にはかかせない東海汽船の支店長もいた。それらの人たちで、対策本部がつくられたのだ。

広瀬恵利子著『命を救え！愛と友情のドラマ』(BCCWJ より)

2つ目は、「それらの人」についてである。以下の例(15)(16)(17)を見ると、多種性が見られる例も、見られない例も存在する。しかし、これらの例から、発言者は特定の人ではなく、共通する特徴などを有する不特定多数の人ではなく、「数と直接関係せずある基準に該当する人を指す」、ということがうかがえる。つまり、実際に該当する人は一人だけでも、いなくても、「それらの人」を使うことができるということである。例えば、例(15)では、子供を「幼稚」だと反論する人が居ないという可能性

があり、発言者がこういうことを意識して例(15)のように発言しても、問題がないのである。

- (15) 子供は「純真」だが「幼稚」だと反論する人があれば、僕はそれらの人に言うだろう。

松山善三『ああ人間山脈』(BCCWJより)

- (16) ▷対象 市内に在住か在勤、通学している十八歳以上の人（個人）か、それらの人でつくるおおむね5人以上のグループなど

広報くさつ (BCCWJより)

- (17) (省略) そこの社会において“お前はだめだ”と言われた人を多く集めたい。それらの人は、言ってみれば既存の組織では満足できない人間なのです。

横井紘一/石川好/青木克己『構想大学デザイン学部』(BCCWJより)

インドネシア語では「その」と「それらの」との両方は「itu」で表現されるが、複数を表すために「疊語+itu」や「mereka」が使われる。しかし、例(15')のように、「基本形+itu」が使える場合もある。これは、先ほど述べた、実際に該当する人は一人だけか居ないという可能性もあるということと関係があると考えられる。

表6 「その」「それらの」に対応するインドネシア語の言葉

	orang-orang itu	para orang itu	orang itu	guru-guru itu	para guru itu	guru itu	mereka
(15')	○	×	○	○	×	○	○
(16')(17')	○	×	×	○	×	×	○

2. 修飾されない「人」「人々」「人たち」とインドネシア語との比較

2. 1. 日本語の場合

國廣（1980）は「疊語複数は〈個別性を保った不特定多数〉を意味する」と述べ、三浦（1998）は疊語の特性は「異種、個別的不特定多数」と主張したが、國廣（1980）では複数を表す疊語名詞の例はすべて修飾されるもので、三浦（1998）では例(8b)以外すべて修飾されるものである。例(8b)は「庭一面に花々が咲いている。(多種類で複数)」という例だが、修飾されない「花々」は必ずしも多種類を表すとは限らない。

例(18)(19)では、「個別性」がなくても「異種」でなくとも成立するため、修飾されない「人々」は複数性だけを表し、必ずしも「個別性」「異種」を表すとは限らない。また、「人々はよくこの道を通る」(筆者による)のように、修飾されない「人々」は禹（2015a）による〈累積的複数〉を表すこともある。さらに、修飾されない「人々」は「不特定多数」のみならず、「特定だがその数は重要ではない」場合にも使われると考えられる。

- (18) カゴの中にチーズとラーマを入れただけの私が、人々の冷ややかな視線にあったのはいうまでもない。

林真理子『レンルンを買っておうちに帰ろう』(BCCWJより)

- (19) 謙三郎は悠々としてただ槍を延ばしているように、人々には見えているであろうが、当の金平は実に愕然としたのである。

子母澤寛『逃げ水』(BCCWJより)

では、修飾されない「人々」は修飾されない「人」とどう異なるのだろうか。修飾されない「人」は後続する言葉によって単数か複数かが不明確であるため、「複数の人」という意味を強調したいときに「人々」が使われると考えられる。また、修飾されない「人」は「性格」という意味を表すことも

ある。一方、修飾されない「人々」は単数を表すことができず、また「性格」という意味にもならない。

修飾されない「人たち」についてはどうだろうか。修飾されない「人たち」の用例は見られないため、上記の例(18)(19)の「人々」を「人たち」に変えてみた。結果、2つとも不自然な文になる。つまり、修飾されない「人たち」は日本語では不適格である。禹(2015b)によると、「たち」を付与することによって「個別性・境界性・限定性を有する非連続体としての単位が獲得される」が、「人」の場合、修飾句なしでは人を限定／特定することが難しいため修飾されない「人たち」が不自然になるのだと考えられる。なお、「限定する／特定する」というのは、およそ、発言者が特定の(単数／複数)の人や物などを指して述べるということである。

2. 2. インドネシア語の場合

表7から、修飾されない「人々」には「orang-orang」、修飾されない「人」には「orang」が対応することがうかがえる。「Para orang」は「人たち」と同様、不適格になるが、前の節でも述べたように「para orang」は修飾されても適格性が変わらない(=不適格のまま)。「Para guru」の使用が可能であるため、「Para guru」に対応する「教師たち」の適格性も確認してみた。結果、「教師たち」は修飾されなくても適格になることが分かる。「教師たち／para guru」の他、「男たち／para laki-laki」「職員たち／para pekerja」なども適格になるということから、「人たち」・「para orang」は、他の「名詞+たち」・「para+名詞」と文法的な性質が異なることがうかがえる。ちなみに、「mereka」は修飾されない疊語形・「para+名詞」に置き換える不可能である。

表7 修飾されない疊語形・「たち／para」・基本形

	人々	人たち	人	教師教師	教師たち	教師
(18)(19)	○	×	○	×	○	○
	orang-orang	para orang	orang	guru-guru	para guru	guru
(18')(19')	○	×	○	○	○	○

まとめると、修飾されない日本語の「人々」「人」は修飾されないインドネシア語の「orang-orang」「orang」と対応関係にあり、また両言語では修飾されない「人たち」「para orang」は不適格であるものの、「人／orang以外の名詞 + たち／para」だと適格になる。

3. 「人々」以外の複数を表す疊語名詞

表8で、BCCWJで見られる疊語名詞を上位25語表す。「其々」といった副詞という用法を持つもの、「日々」といった時間を表すもの、「方々(かたがた)」といった尊敬の意味を含むものなどは本研究の対象外として、本節で扱うのは「国々」「木々」「神々」「山々」にする。これら4つの疊語名詞について、「その+疊語名詞」「それらの+疊語名詞」「それらの+基本名詞」の用例数を表9で表す。

表8 BCCWJに見られた疊語名詞（上位25語）

其々	20503件	少々	3643件	数々	1413件	各々	1145件	諸々	774件
人々	18947件	個々	2966件	種々	1373件	早々	1045件	所々	762件
時々	4704件	徐々	2674件	久々	1352件	木々	969件	山々	738件
方々	4361件	苛々	1639件	国々	1313件	云々	945件	代々	641件
日々	4067件	一々	1424件	年々	1178件	神々	927件	後々	503件

表9 その／それらの+「人々」以外の疊語名詞

その国々	17件(6)	それらの国々	18件(6)	それらの国	27件(7)
その木々	3件(0)	それらの木々	2件(1)	それらの木	2件(0)
その神々	11件(3)	それらの神々	1件(0)	それらの神	0件(0)
その山々	8件(3)	それらの山々	1件(1)	それらの山	3件(0)

※括弧内の数字は、翻訳の文献からの用例数で、総用例数に含まれる。

「人々」以外用例数が最も多い言葉を4つ取り上げる。まず挙げたいのは「国々」についてである。例(20)のように、「その国々」の用例では個別性を表すものがたくさん見られる。一方、「それらの国」の用例ではどちらかというと個別性を重要視しないという傾向がある。というのも、疊語形が使われないからである。また、「その国たち」とは言えないため、個別性を無視しながら複数の国を指したいときには「それらの国」が使われる所以である。例えば、例(21)では国ごとの個別性が必要とされず、それらの国からの引き合いが内容のフォーカスになっている。しかし、発言者はそれらの国の個別性を強調しようと、「それらの国」を「その国々」に置き換えても差し支えがない。例(21)以外、「その国々」と「それらの国」と置換が可能な例も多く見られるため、両方の違いは発言者の捉え方に帰すると考えられる。

「それらの国々」の用例では多種性が強調されることがうかがえる。また、「AやB」構文などを指して述べる用例は2件、言及済みの諸国を指して述べる用例は3件見られる。例えば、例(22)では「それらの国々」に含まれる国の名前が羅列されているため、その個別性が確認される。例(23)では「国旗」という言葉が見られ、「国旗」は無論国によって異なるため、個別性が重要視されることが分かる。

- (20) それぞれの国の、主義、主張、宗教、思想などの異なりからごもっともという意見が出てくるのだが、その国々の若者の意見のベースになっているのは（省略）。

三浦友和『被写体』(BCCWJより)

- (21) しかも、東アジアの著作権市場の様相が大きく変わり、それらの国からの日本の著作物への引き合いが（省略）。 宮田昇『新・翻訳出版事情』(BCCWJより)

- (22) 日本や、アメリカ、中国、韓国どこでもあります。そして今から言うことも事実です。それらの国々の中で（省略）。 Yahoo!知恵袋 (BCCWJより)

- (23) （省略）日本の周辺諸国の地図あるいはそれらの国々の国旗を図で示し（省略）。

国会会議録 (BCCWJより)

次は「木々」「山々」についてである。用例を見ると、「その木々」と「それらの木」、「その山々」と「それらの山」との関係は、「その国々」と「それらの国」との関係に似ていることがうかがえる。

「それらの木々」の用例では多種性が強調されることが見られる。「それらの山々」に関する用例は翻訳の文献のものしかない。

- (24) 家を出て少し歩くと疎らな雑木林であった。その樹々は水々しい緑につつまれて（省略）。

山田風太郎『達磨峠の事件』(BCCWJより)

- (25) 弥彦山のはるか奥には白山や駒形山、浅草岳など、高さが千メートルをこえる越後山脈の山々が、白い雪をかぶって連なっていた。その山々の手前にひろがる平野を信濃川が流れていたが（省略）。

蜂巣敦『「八つ墓村」は実在する』(BCCWJより)

- (26) コンクリートで固められた道の脇にいくら街路樹を植えても、それらの木は本当には生きてはいない。

石堂淑朗『日本人の敵は「日本人」だ』(BCCWJより)

- (27) 安達太良は単独峰ではなく、鉄山、箕輪山、鬼面山、船明神山などとつながり、安達太良連山をなしている（最高峰は箕輪山で、標高千七百二十八メートル）。なかなか奥がふかく、それらの山につづく縦走コースもあるのだが、（省略）。

岳真也『日本楽名山』(BCCWJより)

- (28) 五分咲きのサクラの純白や淡いピンク、モモの濃艶なピンク、マサキの葉のめざましいシトロンイエロー、それにチラホラと混じるツバキの花とミカンの実、というゆたかな彩りに囲まれて。それらの樹々の中の一本のサクラ（省略）。

堀淳一『消えた鉄道を歩く』(BCCWJより)

最後は「神々」についてである。「その神々」は複数の神々を1つのまとまりとして述べるが、1つのまとまりでありながらも、個別個別の神が存在するということも含意する。個別性・多種性を重用しない「神たち」「それらの神」などが使われない（= BCCWJでは用例がない）のは、神に対して失礼な言葉づかいになるからだと考えられる。また、「それらの神々」を使うと、多種性が強調される。例が次のようである。

- (29) ネーチュンがホル（チャンタン高原）の出身の神であるのに対して、ガードンは黒海出身の神であるといわれて、（中略）。ほとんどのチベット人は、（中略）、朝晩その神々に祈りを捧げることで直接神々にはたらきかけている。

野村正次郎『チベットを知るための50章』(BCCWJより)

- (30) おののおの異なる機能を有するそれらの神々は、大家族、氏族、首長国などの社会集団の守護神として、（省略）。

山本真鳥『民族の世界史』(BCCWJより)

インドネシア語では、「人」以外の名詞の場合、「その+疊語」「それらの+基本形」「それらの+疊語」を同じ言葉で表現することができるため、インドネシア語との比較を省略する。

4. 結論

本稿では主として日本語とインドネシア語の疊語形・「たち／para」について、個別性の観点から考察を行った。日本語では、修飾される疊語形（人々）は〈累積的複数〉や多種性を表すことができるが、発言者の否定的な価値性は表すことができない。一方、修飾されない「たち」（人たち）は基本的に〈累積的複数〉、多種性を表すことができないが、発言者の否定的価値性を表すことはできる。インドネシア語では、修飾される疊語形（orang-orang／guru-guru）は〈累積的複数〉、同種性・多種性、発言者の否定的価値性を表すことができるが、「para」（para guru）は日本語の「たち」とほぼ似ている。インドネシア語の「para orang」は例外であり、適格になることはない。

また、修飾されない疊語形の「人々」「orang-orang」は複数の人を表すが、個別性が含まれるとは限らない。修飾されない基本形「人」「orang」は単数の人も複数の人も表すことができるが、「性格」という意味で使われることもある。修飾されない「人たち」「para orang」は不適格であり、他の「名詞+たち」「para+名詞」と文法的性質が異なる。

日本語における「人」以外の名詞についても考察した。その結果、次のことが分かる。「その+疊語形」には個別性が含意され、「それらの+疊語形」ではその個別性が強調される。「それら+基本形」には個別性がなく、複数性のみを表したいときに使われる。

数詞や「多くの」「たくさんの」といった言葉の共起は複数疊語と複数接辞に影響を及ぼすと予測されるが、これらについては今後の課題にする。「彼等」と「mereka」の共通点・相違点についても今後の課題にする。

■ 参考文献

禹昊穎 (2015a) 「疊語の諸機能」『学習院大学人文科学論集』第24号, pp. 25-57

禹昊穎 (2015b) 「東アジア諸語における〈数〉に関する発想と表現—名詞の単数と複数をめぐって」『学習院大学国語国文学会誌』第58号, pp. 72-90

國廣哲彌 (1980) 「総説」國廣哲彌 (編) 『日英語比較講座 第二巻文法』大修館書店, pp. 1-22

田村泰男 (1991) 「現代日本語における疊語について—数概念からみた疊語—」『広島大学留学生センター紀要』第1号, pp. 41-47

デディ・スリヤディ (2006) 「インドネシア語における重複語の研究—重複語の意味と形態を中心にして」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部第55号, pp. 295-301

三浦秀松 (1998) 「数についての一考察：疊語をめぐって」『Core』第27号, pp. 43-60

Alwi, Hasan, Soenjono Dardjowidjojo, Hans Lapolita, dan Anton M. Moeliono. 1993. *Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia Edisi Kedua*. Jakarta: Departemen Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia

Moeliono, Anton M., Hans Lapolita, Hasan Alwi, Sry Satrya Tjatur Wisnu Sasangka, dan Sugiyono. 2017. *Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia Edisi ke-4*. Jakarta: Departemen Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia

Simatupang, M.D.S. 1979. *Reduplikasi Morfemis Bahasa Indonesia*. Jakarta : Djambatan

Sneddon, James Neil, Alexander Adelaar, Dwi Noverini Djener, and Michael C. Ewing. 2010. *Indonesian Reference Grammar 2nd Edition*. Allen & Unwin

Verhaar, J.W.M. 2016. *Asas-Asas Linguistik Umum*. Yogyakarta: Gadjah Mada University Press

■ インドネシアの図書館で閲覧した文献一覧

(大阪大学の図書館で所蔵していないものに限って載せる)

インドネシア国立図書館

- ① Azwardi. 2015. *Morfologi Bahasa Indonesia*. Banda Aceh: Bina Karya Akademika
- ② Ermanto. 2010. *Morfologi Derivasi & Infleksi*. Padang: UNP Press
- ③ Megawati. 2017. *Introduction to Linguistic*. Yogyakarta: Graha Ilmu
- ④ Seken, I Ketut. 2017. *Introduction to Linguistics*. Depok: Rajawali Pers
- ⑤ Verhaar, J.W.M. 2016. *Asas-Asas Linguistik Umum*. Yogyakarta: Gadjah Mada University Press
- ⑥ Yendra. 2016. *Mengenal Ilmu Bahasa*. Yogyakarta: Deepublish

インドネシア大学図書館

- ① Alieva, N.F., V.D. Arakin, A.K. Ogloblin, dan Yu. H. Sirk. 1991. *Bahasa Indonesia Deskripsi dan Teori*. Yogyakarta: Penerbit Kanisius
- ② Ariyani, Farida dan Megaria. 2018. *Morfologi Bahasa Indonesia*. Yogyakarta: Graha Ilmu
- ③ Chaer, Abdul. 2008. *Morfologi Bahasa Indonesia (Pendekatan Proses)*. Jakarta: Rineka Cipta
- ④ Chaer, Abdul. 2015. *Morfologi Bahasa Indonesia (Pendekatan Proses)*. Jakarta: Rineka Cipta
- ⑤ Keraf, Gorys. 1987. *Tatabahasa Indonesia*. Flores: Nusa Indah
- ⑥ Marsono. 2016. *Morfologi Bahasa Indonesia dan Nusantara (Morfologi Tujuh Bahasa Anggota Rumpun Austronesia dalam Perbandingan)*. Yogyakarta: Gadjah Mada University Press
- ⑦ Prihantini, Ainia. 2015. *Master Bahasa Indonesia*. Yogyakarta: B first
- ⑧ Syaifoel, Rahman. 2018. *Practical Grammar Bahasa Indonesia*. California: CreateSpace Independent Publishing Platform

ジャカルタ図書館

- ① Simpen, I Wayan. 2021. *Morfologi—Kajian Proses Pembentukan Kata*. Jakarta: Bumi Aksara

バリ州立図書館

- ① Ophuijsen, Ch. A. van. 1983. *Tata Bahasa Melayu*. Jakarta: Djambatan

ウダヤナ大学図書館

- ① Muslich, Masnur. 2014. *Tata Bentuk Bahasa Indonesia : Kajian ke Arah Tatabahasa Deskriptif*. Jakarta: Bumi Aksara
- ② Sutjaja, I Gusti Made. 2001. *Group Nomina Bahasa Indonesia*. Denpasar: UPT Penerbit Universitas Udayana
- ③ Verhaar, J.W.M. 1995. *Pengantar Linguistik*. Yogyakarta: Gadjah Mada University Press

Kemdikbud 図書館

- ① Chaer, Abdul. 2019. *Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia (Edisi Revisi)*. Jakarta: Rineka Cipta
- ② HP, Achmad dan Alek Abdullah. 2012. *Linguistik Umum*. Jakarta: Penerbit Erlangga
- ③ 学術雑誌
Aksara, Bebasan, Bunga Rampati, Gramatika, Jala Bahasa, Kadera Bahasa, Kandai, KAWANUA, Kekelpot, Kelasa, Kibas Cenderawasih, Lingua, Lingua Humaniora, Litera, Mabasan, Madah, Medan Makna, Metalingua, Metasastra, UNDAS, Ranah, Salingka, Sawerigading, Seranta, Sirok Bastra, Suar Betang, Telaga Bahasa, Totobuang, Widyaparwa